

j) アオバラヨシノボリ、キバラヨシノボリ

N-4 地区におけるアオバラヨシノボリ及びキバラヨシノボリの [] 状況を表 6. 2. 4-13、アオバラヨシノボリの流域別の [] 状況を図 6. 2. 4-15 に、両種の [] 位置を図 6. 2. 4-16 に示した。

アオバラヨシノボリは、N-4 地区では []、 []、 []、 []、春季 []、夏季 []、秋季 []、冬季 [] した。キバラヨシノボリは、 [] において、春季 []、同地点は今年度の小雨の影響で夏季以降は干出していたため、その後の調査において本種の []。なお、キバラヨシノボリについては、 [] [] 実体顕微鏡下で行う必要があるが、調査毎に [] は環境保全の観点から不適と判断し、 [] 色彩上の特徴からキバラヨシノボリ []、 []。

流域別に出現状況の変化をみると、アオバラヨシノボリでは [] [] では春季以降に []。これは、本年度は降雨が少なかったため、夏季以降では一部の流程で枯れ沢となったことや、流水(瀬)が消失して淵のみが僅かに点在する環境へ変化した等、魚類の生息場所の消失・悪化が生じたためと考えられる(図 6. 2. 4-17)。また、 [] 春季において [] キバラヨシノボリ []、夏季に同地点の干出が確認されており、それ以降の調査で []。

浮遊仔魚については、繁殖期にあたる春季から夏季にかけて []。なお、アオバラヨシノボリの産卵期は4月～9月、キバラヨシノボリの産卵期は、3月～6月であり、孵化仔魚は大きな淵の表層を遊泳していることが知られている^{注2)}。

注 1) キバラヨシノボリの同定は、「中坊徹次編(2013). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版」に従った。
注 2) 沖縄県(2005). 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータおきなわ(動物編):pp. 174-176.

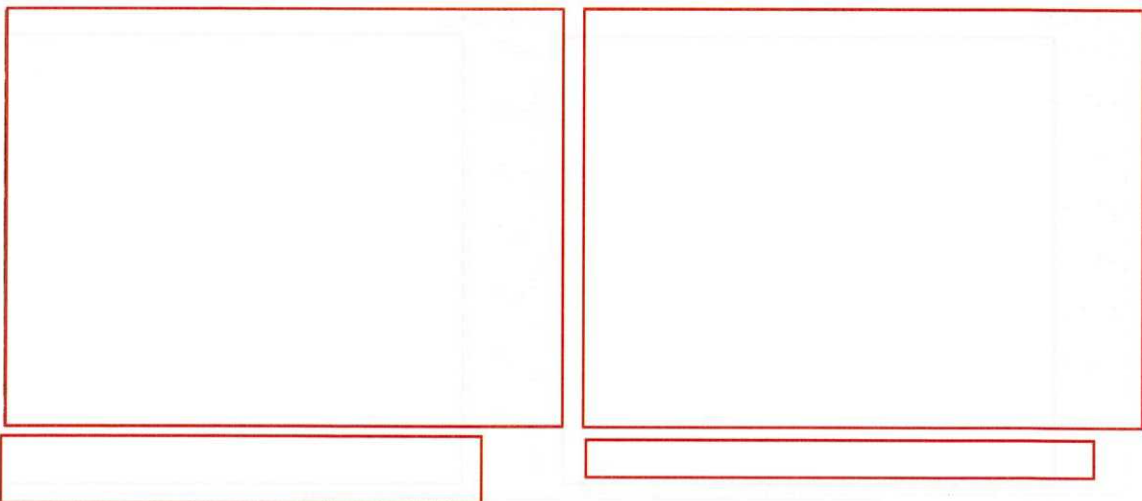
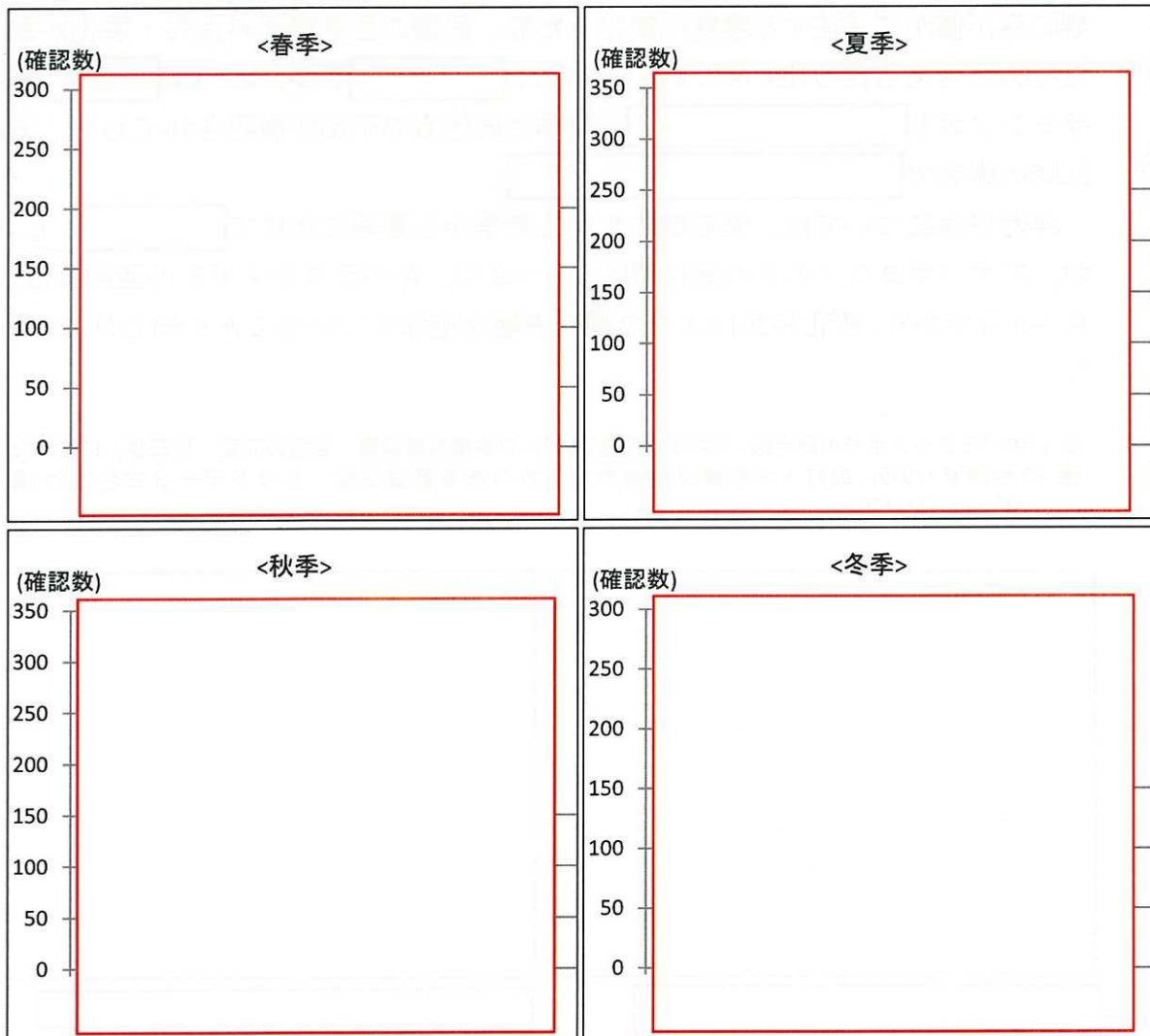


表 6.2.4-13 アオバラヨシノボリとキバラヨシノボリの状況一覧(N-4 地区)

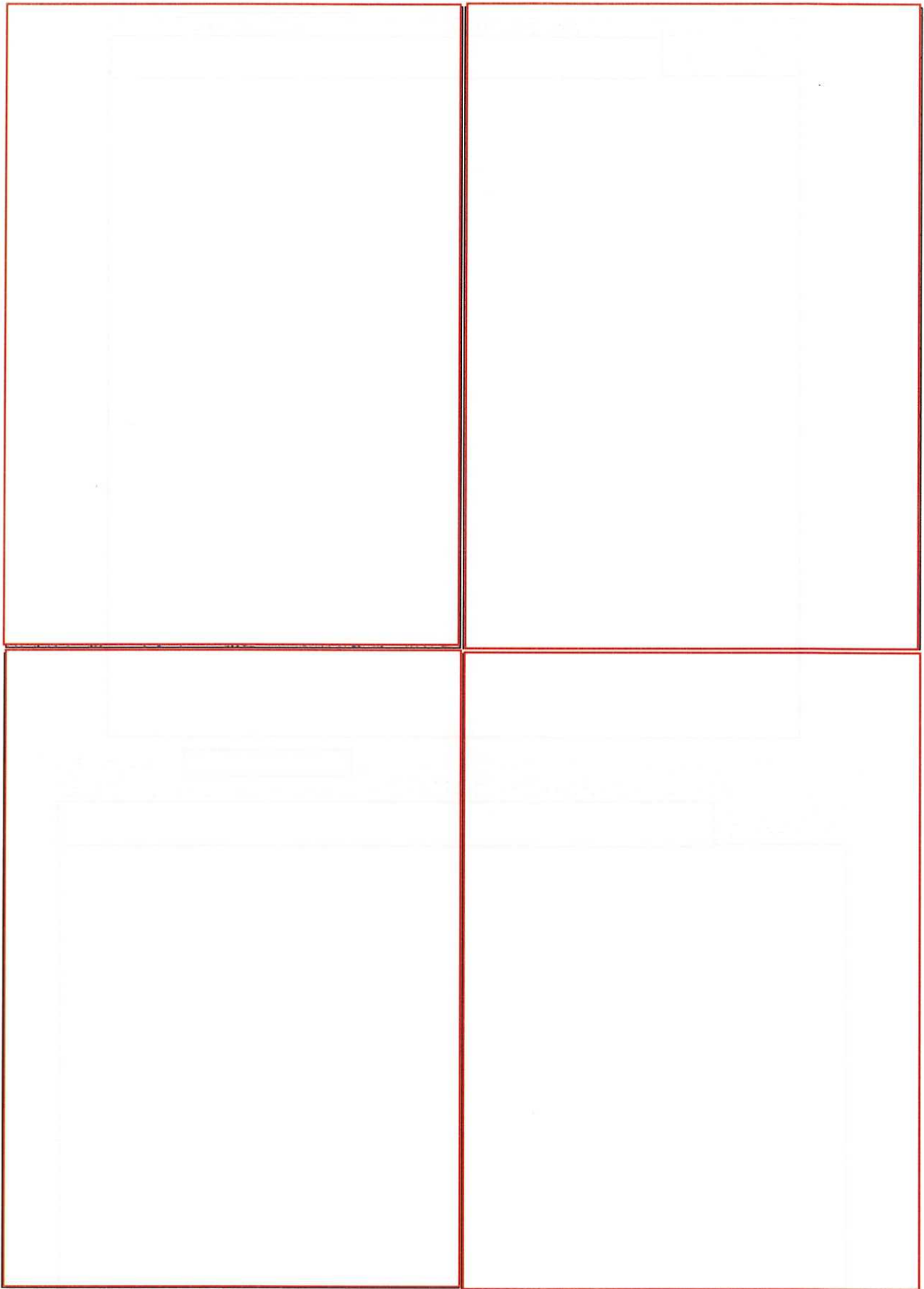
種名	春季	夏季	秋季	冬季
アオバラヨシノボリ				
キバラヨシノボリ				

注 1) 。
 注 2) 両種の浮遊仔魚の判別は顕微鏡下で行う必要があるが、キバラヨシノボリは 、 ことから、ここでは アオバラヨシノボリ 。



注) 秋季調査以降では、。

図 6.2.4-15 流域別の状況 (アオバラヨシノボリ:N-4 地区)



注1) 図中の数値は [] を示す。

注2) 図中の沢の状況は、春季に [] 場所の主な流水変化について記載しており、調査範囲内の全ての流水変化は記載していない。

図 6.2.4-16 アオバラヨシノボリとキバラヨシノボリの [] 位置 (N-4 地区)

表 6.2.4-14 アオバラヨシノボリとキバラヨシノボリの (N-4 地区:春季)

流域	地点 No.	アオバラヨシノボリ	キバラヨシノボリ

表 6.2.4-15 アオバラヨシノボリとキバラヨシノボリの (N-4 地区:夏季)

流域	地点 No.	アオバラヨシノボリ	キバラヨシノボリ

<input type="text"/> :水溜れの状況	<input type="text"/> :過年度の状況
<input type="text"/> :夏季の状況 流水の減少により淵が澱んでいる。	<input type="text"/> :春季の状況(写真左と同一地点) 透明な水が淵に溜まっている。
<input type="text"/> :夏季の状況 水が涸れて流水部は消失している。	<input type="text"/> :冬季の状況 僅かに水が溜まる程度である。

図 6.2.4-17 における流水の状況(N-4 地区)

k) オキナワミナミヤンマ

N-4 地区の調査において、オキナワミナミヤンマは []。なお、評価図書作成時の現地調査では、N-4 地区において本種は確認されていない。

l) ヤンバルテナゴコガネ

N-4 地区の調査において、ヤンバルテナゴコガネは []。なお、評価図書作成時の現地調査では、N-4 地区において本種は確認されていない。

m) マングース、ノネコ

N-4 地区におけるマングースとノネコの確認状況を表 6.2.4-18～表 6.2.4-19、確認したノネコを図 6.2.4-18、確認地点を図 6.2.4-19 に示した。

マングースは、自動撮影機、トラップ、現地踏査では確認されなかった。ノネコは、自動撮影機では、平成 25 年 5、7、8 月、10 月、平成 26 年 1 月に確認された。写真から成獣の模様を基に個体識別をしたところ、N-4 地区では 2 個体のノネコが判別された。また、現地踏査において、フィールドサイン(糞)を確認した。なお、その他の動物として、西側に設置した自動撮影機でノイヌが確認された。



ノネコ①(シロクロの個体) ノネコ②(グレーシロの個体) フィールドサイン(ノネコの糞)

図 6.2.4-18 自動撮影機で確認されたノネコ及びフィールドサイン(糞)

表 6.2.4-18 マングースとノネコの確認状況一覧(N-4 地区:自動撮影機 2ヶ所)

種名	区分	確認数											
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
マングース	成獣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	幼獣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノネコ	成獣	1	0	5	1	0	1	0	0	1	2	1	
	幼獣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 同一個体の複数確認を含む(写真判別ではシロクロとグレーシロの計 2 個体を確認)。

表 6.2.4-19 マングースとノネコの確認状況一覧(N-4 地区)

種名	区分	確認数・地点数(フィールドサイン)			
		春季	夏季	秋季	冬季
マングース	成獣	0	0	0	0
	幼獣	0	0	0	0
	フィールドサイン(足跡・糞)	0	0	0	0
ノネコ	成獣	0	0	0	0
	幼獣	0	0	0	0
	フィールドサイン(足跡・糞)	1	0	0	1

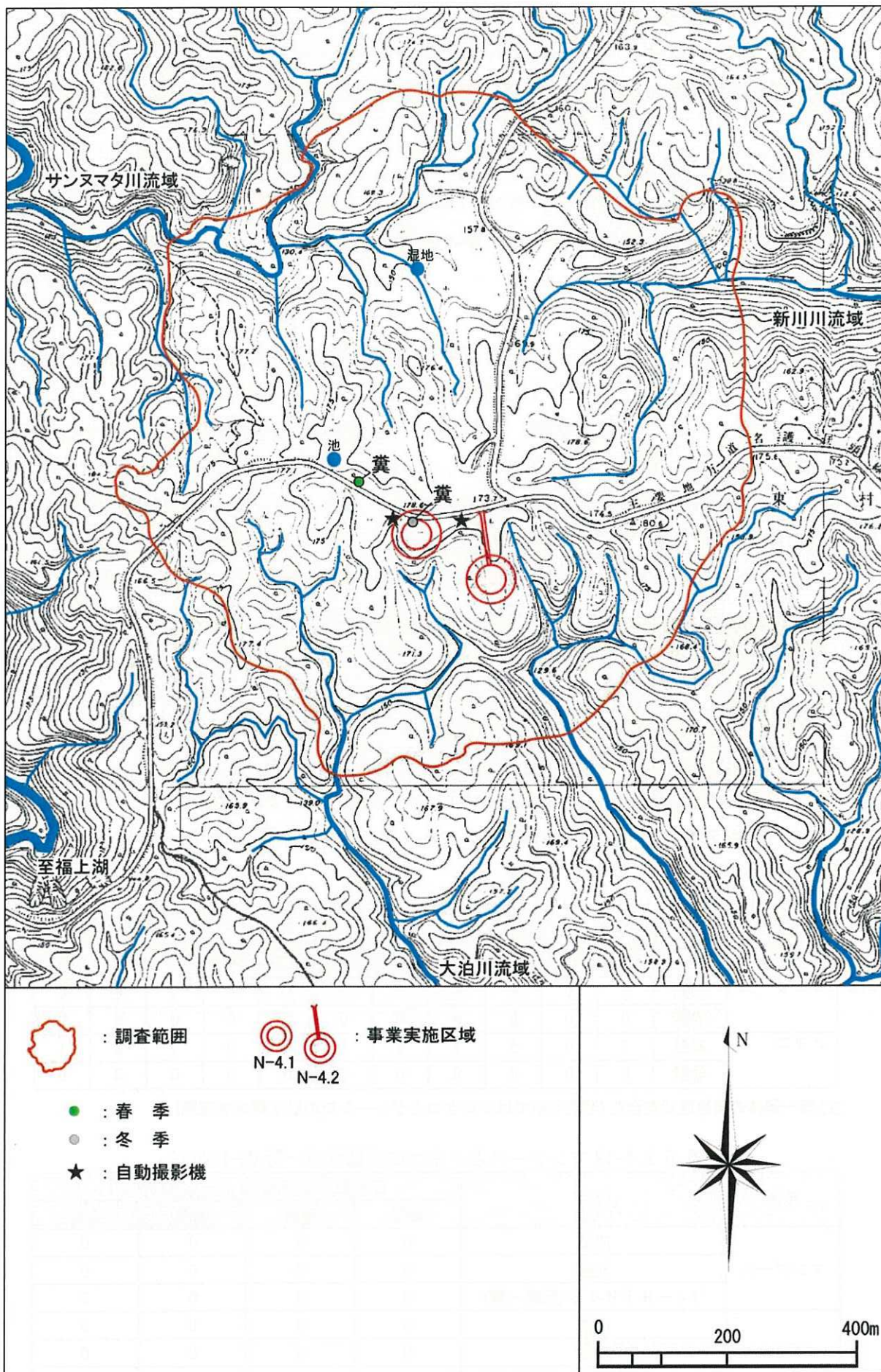


図 6.2.4-19 ノネコの確認位置(N-4 地区)

n) その他(淡水藻類の生育状況)

N-4 地区における重要な淡水藻類の確認状況を表 6.2.4-20、図 6.2.4-20 に示した。重要な淡水藻類は、紅藻植物門の []、[]、[]^{注)}の3種が確認された。

確認地点数は、[]が最も多く、各季の調査で22~28地点が確認された。本種はN-4地区内の []で確認された。[]と []は確認地点数が少なく、[]は3地点/季、[]は2~4地点/季であった。

[]では、[]と []の2種が確認された。[]は淵内の岩盤上に、[]は主に滝等の水の流れる岩盤上で確認した。

[]では、[]の1種が確認された。[]は滝等の水の流れる岩盤上で確認した。

[]では、[]、[]、[]の3種が確認された。[]は滝等の水の流れる岩盤上で確認した。[]

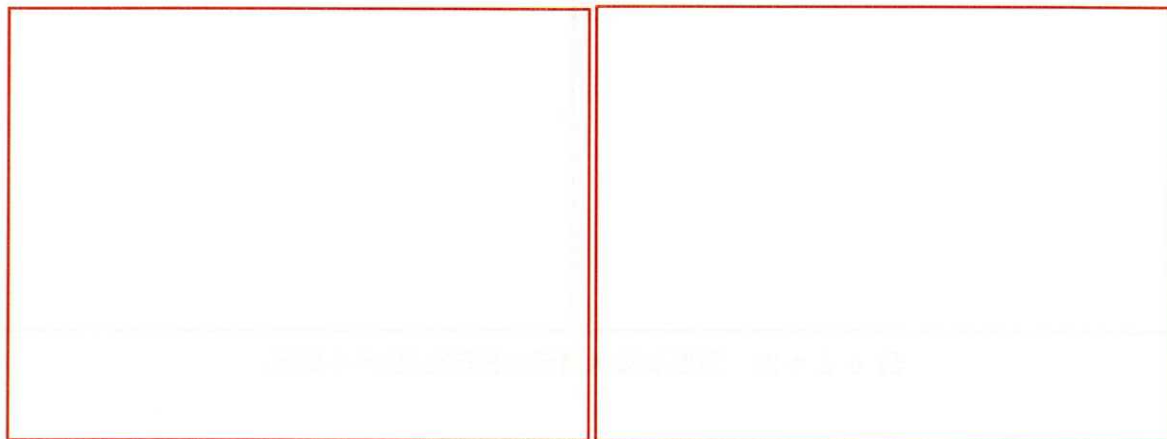
[]は淵内の岩盤上で確認した。[]は、上空が開けてやや明るく、流れのほとんど無い浅い河床の礫や石上に生育していた。

注) 現地での同定が困難な種のため種の同定に至らなかったが、[]の全種は、環境省のRLに選定されていることから、ここでは、重要な種として扱った。

表 6.2.4-20 重要な淡水藻類の確認地点数(N-4地区)

門	種名	環境省 (RL2012)	沖縄県 (2006)	確認地点数			
				春季	夏季	秋季	冬季
紅藻植物		NT	NT	28	22	24	26
		NT	NT	3	3	3	3
		—注)	—注)	2	2	2	4
計				33	27	29	33

注) 現地での同定が困難な種のため種の同定に至らなかったが、[]の全種は、環境省のRLに選定されていることから、ここでは、重要な種として扱った。



岩盤上の []

確認した [] の藻体

6.2.5 景観

1) 圍繞景観

(1) 調査期間

調査の実施期間を表 6.2.5-1 に示した。

表 6.2.5-1 調査期間一覧(N-4 地区)

区分	調査日
工事前	平成 23 年 9 月 28 日、10 月 6 日、13 日
存在・供用時	平成 25 年 5 月 27 日 平成 25 年 8 月 12 日 平成 25 年 10 月 21 日、29 日 平成 26 年 1 月 24 日、2 月 21 日、3 月 7 日

(2) 調査方法

N-4 地区において、過年度に実施した圍繞景観の調査地点において写真撮影を行い、圍繞景観の状況を把握した。

(3) 調査地点

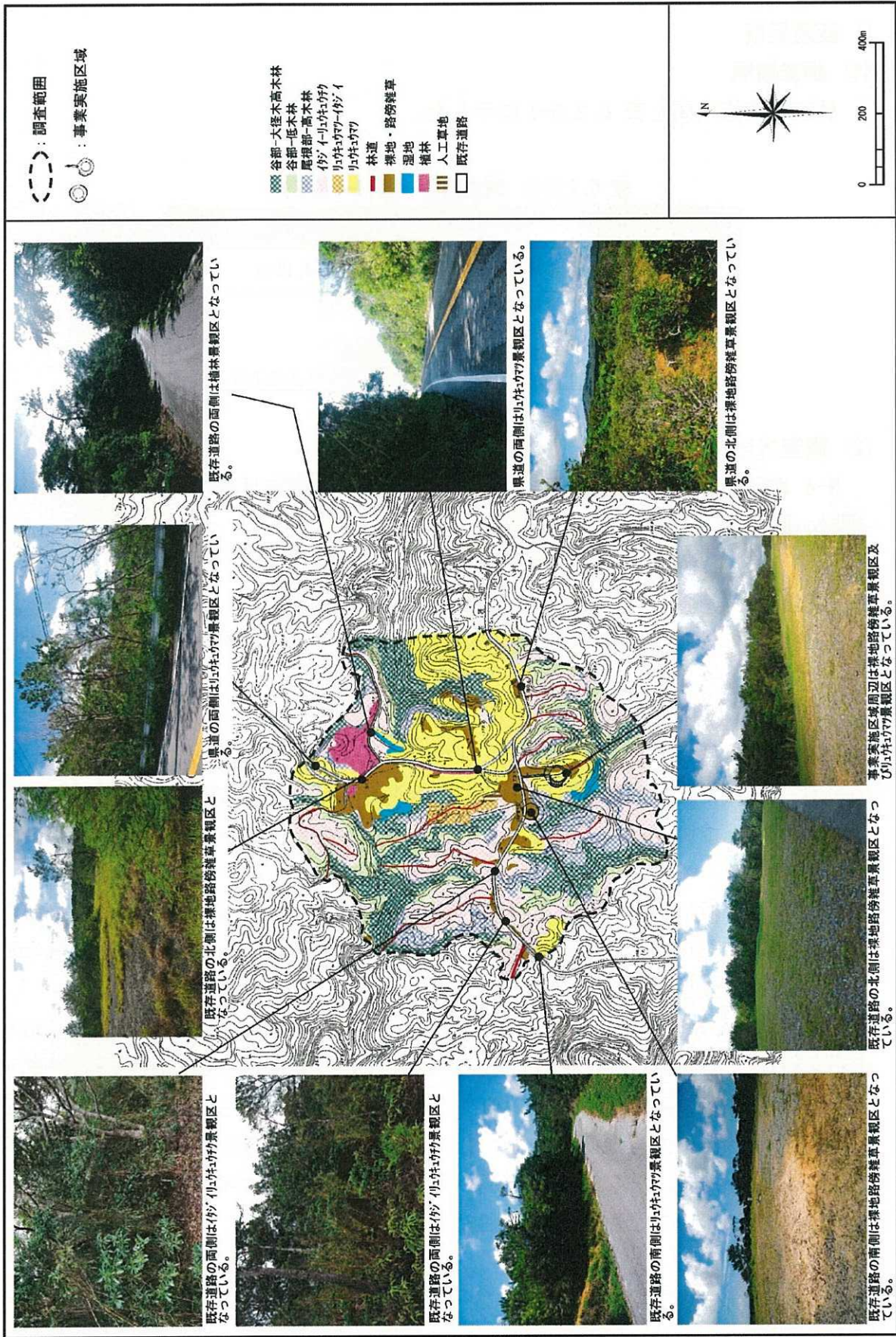
N-4 地区の景観調査は、評価図書における調査地点と同一地点において実施した。

(4) 調査結果

本調査地域においては、ほぼ全域が林内となっており、既存道路については徒歩や車両などでの通行が可能であることから、主要な眺望点は既存道路沿いに設定されている。

眺望状況の概況としては、主に既存道路景観区沿いにリュウキュウマツ景観区や裸地・路傍雑草景観区が分布する状況であり、谷部-大径木高木林、谷部-低木林については調査地点からの眺望はできない。

季節別の調査地点からの眺めの状況は図 6.2.5-1～図 6.2.5-5 に示すとおりである。N-4.1 完成後の平成 25 年度では、部分的にはリュウキュウマツ景観区が裸地・路傍雑草景観区になっているものの、改変面積が小さいことから、N-4 地区の眺めの状況に大きな変化はないものと考えられる。なお、平成 25 年度の秋季調査以降において、N-4.2 の土工事が実施されており、次年度以降に工事前後の景観の変化について比較を行う予定である。



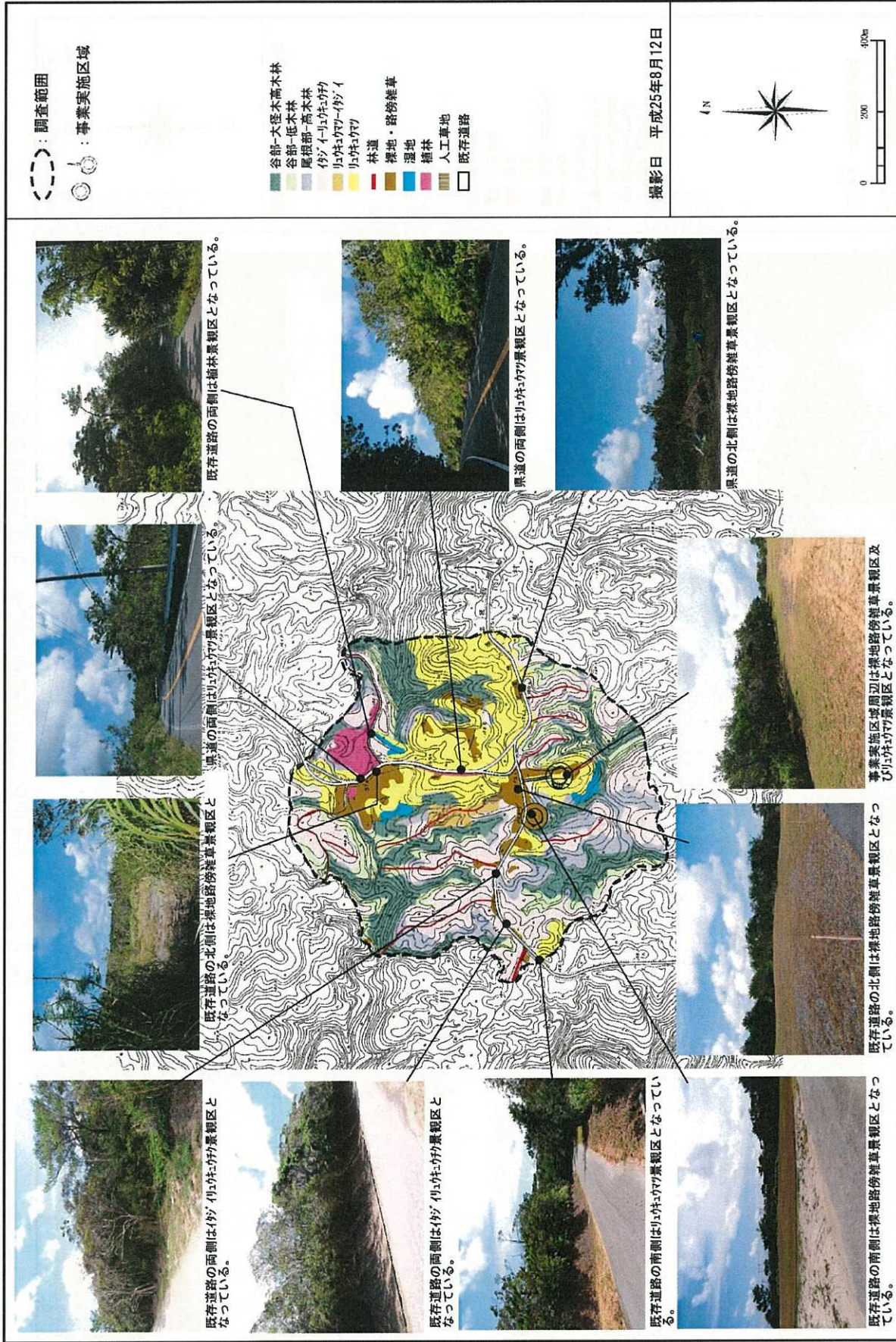


図 6. 2. 5-3 N-4 地区における眺めの状況 (平成 25 年度夏季)

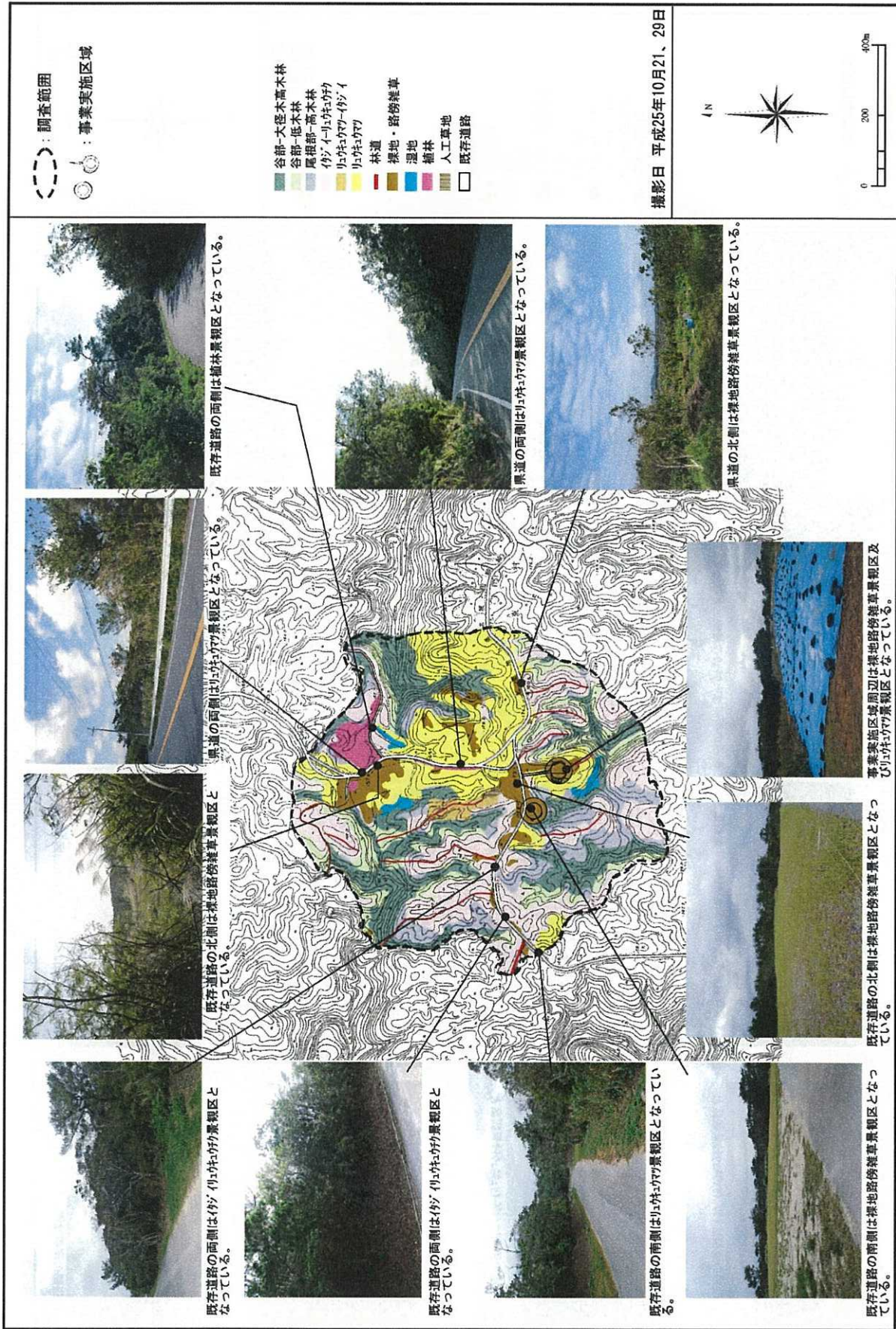


図 6.2.5-4 N-4 地区における眺めの状況 (平成 25 年度秋季)

